

平成28年12月度 定例自然観察会報告書

六甲山自然案内人の会

【概要】

実施日：平成28年12月10日（土）

天候：晴

担当班：6班

テーマ：布引の残りもみじを楽しもう

見所：今回は六甲でも最もポピュラーなコースのひとつなので少し変化を加えました。意外と知られていない布引の歴史に触れながら滝道を歩き、雄滝の少し上の展望台の横から日当たりのよい舗装路に出て市が原まで歩きました。舗装路では生田川沿いのハイキング道では見られない植物に出会うことができます。道路わきにはツル植物が多く、秋に終わりを告げるように実が美しく色づき、見上げればイロハモミジをはじめとした落葉樹の紅葉も楽しむことができました。

参加人員：ビジター31名、会員26名、合計57名

コース：JR新神戸駅～雄滝～展望台～舗装路～市ヶ原～布引貯水池～新神戸駅

配布資料：ルートマップ 植生リスト

タイム： 9：30 新神戸駅集合、受付、あいさつ、体操

9：40 出発

10：10 雄滝

10：30 展望台

10：40 舗装路

12：30 市ヶ原 昼食

14：20 布引貯水池

14：50 新神戸駅 解散

【観察記録】

集合は新神戸駅1階の駅前広場。先週の土曜日はハイカーのグループや団体でごった返していましたが、観察会当日は寒い予報が出ていたためか混雑もなく幸いでした。師走も本番を迎えて自然観察どころではないのか、参加者は予想通り先月を下回りましたが、それでも31名のビジターに参加をいただきました。受付、班分け（4班に）、各班の担当者紹介、注意事項説明、準備体操を行って班別にスタートしました。最大50名程度の参加者を予想して5班体制の計画で準備していましたが、4班編成に変更しました。

◆新神戸駅～雄滝

新幹線の下をくぐれば、そこはもう六甲山中の別世界。



出発直後、新神戸駅の下を通過後の登り

生田川の深い谷に沿ってハイキング道を登っていきます。またこのコースには古から現在に亘る神戸の歴史が凝縮されています。

道沿いには、平安時代以降に布引の滝を詠んだ36の歌碑が再建され、古くから名所として歌人などが訪れていたことを紹介しています。

生田川を最初に渡る砂子橋は、神戸市が水道施設を建設した際に配水管を通す水路橋として作られ、今も重要文化財の1つとして健在であるとのこと。このように布引や神戸の歴史紹介を交えて進んでいきます。



雌滝、鼓ヶ滝、夫婦滝、雄滝を見ながら進みます。雄滝の横を登る階段道は、紅葉越しに滝を眺められる絶好のビューポイントです。滝の手前には残り紅葉が色を添えています。雄滝茶屋の手前に丸い石が祀られています。雄滝は6段からなり段ごとに深い甌穴がありますが、このことは案外知られていません。この丸い石はその甌穴に落ちた石が水流に揉まれて丸くなったものを取り出したとのこと。

雄滝までは道が狭い上に登山者が多く、登山者の通行に配慮しながらの観察となるため、班ごとに違いはあるものの、場所を選びながら布引にちなんだ歴史や逸話の紹介を多く取り入れました。



モミジ越しに雌滝を鑑賞



布引の滝の甌穴から取り出した甌石

ここまでは深い谷間のため日当たりが少なく、植生としてはアラカシなどの常緑樹が主体ですが、六甲には比較的少ないウラジロウツギがここでは随所に見られます。また露出する岩肌にはマメヅタをはじめイワヒバ、マツバランといった多くのシダ類が観察できました。



◆雄滝～展望台

雄滝からは勾配がやや穏やかになり、アラカシやアベマキの樹林帯を登ります。足元にはノキシノブやヒトツバ等のシダ類も多く見られました。

眼下に街を見下ろす展望台に到着してトイレ休憩。



◆展望台～舗装路（ハーブ園入口まで）

展望台横の階段を登って車道に出ます。車は少ないが時々通るので注意しながらの観察となります。沿道にはアカメガシワ、ニセアカシア、クサギ、ウツギ、アキニレ等の明るい場所を好む植物やツルウメモドキ、アオツヅラフジ等のツル植物が多く見られます。花の季節は過ぎ去りましたが、シマカンギクの黄色い花が所々で微笑みかけてくれました。



舗装路の沿道の観察



ツルウメモドキの実



シマカンギク

◆舗装路（ハーブ園入口）から貯水池への分岐・市ケ原

明るい道が続きます。見上げればノグルミ、ムクノキ、エノキが多くの実をつけています。眼前にはイボタノキ、キツタ、フユザンショウの実も観察できました。テイカカズラは実の中に虫が入って「テイカカズラミサキフクレフシ」という名の虫こぶができています。

豆のように小さなマメガキの実が枝ごと落ちていて、その甘い果実をちゃっかりと食した人もいたようです。

日当たりのよい場所から日陰に入ると急激に体感温度が下がって寒さが堪えます。昼食予定の市ケ原へと歩くペースを上げて、予定どおりの時刻に昼食タイムとなりました。

市ケ原では1月の観察会のチラシ配布、来年度のエキスパート養成講座の受講生募集チラシの配布も行われました。



◆市ケ原～布引貯水池

昼食後は、舗装道路から分かれて、貯水池の横を通る通常のハイキングコースを下ります。

国の重要文化財に指定されている9つの水道施設を紹介し、途中で施設を確認しながら進みます。このコースでは紅葉が昼下がりの陽光を浴びて秋の名残を惜しむように色づいています。貯水池には鮮やかなオシドリをはじめ様々な冬鳥が飛来していますが、人通りの多い登山道から離れた反対側の畔に居るので確認が難しかったようです。



◆布引貯水池～新神戸駅

日本で最初の重力式コンクリートダムとして建造された布引五本松堰堤でダム湖に別れを告げ、展望台での一服をはさみ、滝道を通らずに足早に新神戸駅へ向かいます。

無事に新神戸駅に到着。観察工程を全て終了、解散となりました。

【観察会を終えて】

まずトラブルなく観察会が実施でき、参加された皆様のご協力にスタッフ一同感謝いたします。ありがとうございました。

今回の布引の滝から市ヶ原のコースは、六甲山の中でも著名なハイキングルートですが、趣向を変えて、歩く人が少ない車道を主な観察場所を選んだこと、そして普段はあまり注目されない布引の歴史に目を向けて紹介したことが特色でした。

アプローチが便利、歩きやすい、高低差が小さい、トイレの心配がない、といったことから便利で安全で誰でも参加しやすいコースと言えます。

12月ということで本来花や落葉樹の観察には適さない時期ではありましたが、落葉樹の紅葉や様々な果実に出会うことができ、この時期なりの楽しみ方ができたのかなと実感しております。

今回の担当スタッフサイドの準備として、チームごとにメンバーが協力して案内役を分担するという方式を採用しました。この方式は6班では初めての試みですが、反省会での意見では、チームの一体感やスキルアップ等の面からも良かったという声が多くを占めました。

「来年もこの方式を継続して、今回の反省点を踏まえた改善を行う」という結論を得て反省会をとりまとめました。

記 第6班 東條